

平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年11月4日

上場取引所 東

上場会社名 エヌアイシ・オートテック株式会社
 コード番号 5742 URL <http://www.nic-inc.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 西川浩司
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長 (氏名) 藤井透

TEL 076-425-0738

四半期報告書提出予定日 平成26年11月6日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	3,015	4.6	220	19.9	224	19.6	141	26.0
26年3月期第2四半期	2,882	37.1	184	—	187	—	112	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	26.05	—
26年3月期第2四半期	20.67	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	5,427		3,365			62.0
26年3月期	5,271		3,268			62.0

(参考)自己資本 27年3月期第2四半期 3,365百万円 26年3月期 3,268百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	14.00	14.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,007	10.1	273	△18.6	276	△19.8	164	△20.0	30.20

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期2Q	5,500,000 株	26年3月期	5,500,000 株
27年3月期2Q	51,196 株	26年3月期	51,149 株
27年3月期2Q	5,448,817 株	26年3月期2Q	5,448,887 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
4. 補足情報	10
生産、受注及び販売の状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、消費税率の引き上げによる影響が残ったものの、概ね回復基調のまま推移し、企業収益が改善する傾向が見られました。しかしながら円安の進行に伴い、原油や原材料価格の高騰等、仕入コストの増加による利益率の低下等の懸念が表れてまいりました。また、世界経済におきましては、米国経済が堅調に推移しているものの、中国経済の成長鈍化やウクライナ、中東の問題等、不安要素を払拭できない状況で推移いたしました。

このような状況のもと当社は、第1四半期より引き続きFA装置（FA：Factory Automation/「自動化・省力化装置」をいう。）等に使用される当社主力製品「アルファフレームシステム」の大口案件の受注に注力し、また、生産活動の海外シフトを図る自動車業界向けのFA装置やフラットパネルディスプレイ（以下、「FPD」という。）業界向けの大型カスタムクリーンブース等について、当社の技術力を活かした提案型営業活動を展開し、受注を確保してまいりました。

これらの結果、当第2四半期累計期間の売上高は、3,015百万円（前年同期比4.6%増）となりました。利益につきましては、売上高の増加に加え、売上構成が当初想定から変化したことや、前事業年度に完成した技術センター（立山工場C棟）の本格稼働による生産性向上も寄与し、売上総利益率の改善が図られたこと等により、営業利益は220百万円（前年同期比19.9%増）、経常利益は224百万円（前年同期比19.6%増）、四半期純利益は141百万円（前年同期比26.0%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

[アルファフレーム部門]

アルファフレーム部門におきましては、「カクチャTM」及び「マーキングシステムTM」を活用し、アルミニウム合金製構造材の付加価値を高めることで、競合他社と差別化を図った提案型営業を継続的に展開いたしました。

一般の材料・部品は、消費税率引き上げ前の駆け込み受注の反動があったことから第1四半期では落ち込みがありました。第2四半期には回復し、前年同期より増加となりました。

継続的な受注があるFA装置等に使用される「アルファフレームシステム」の大口案件は、第2四半期では順調に推移したものの、第1四半期が生産計画の谷間となったことが影響し、当第2四半期累計期間としての売上高は減少いたしました。しかし、通期におきましては、前事業年度並みの受注が見込まれております。

この結果、当部門の売上高は1,119百万円（前年同期比21.9%減）となりました。

[装置部門]

装置部門におきましては、当社の技術力を活かした質の高いFA装置の提案活動を推進いたしました。

第1四半期は、消費税率引き上げ前の駆け込み受注の反動もあって、自動車部品製造企業向け大型物件、FPD製造企業向けクリーンブースともに売上高は減少いたしました。しかし、第2四半期では自動車部品製造企業向け大型設備案件の売上が順調に推移し、当第2四半期累計期間における売上高は増加いたしました。

この結果、当部門の売上高は1,141百万円（前年同期比19.9%増）となりました。

[商事部門]

商事部門におきましては、工業用砥石、油脂類等の消耗品関係が、消費税率引き上げ前の駆け込み受注の反動によって、期首は低調な滑り出しとなりましたが、第1四半期後半には回復に転じ、第2四半期も順調に推移いたしました。なお、機械設備関係に関しては、機械部品製造関連企業向けの生産機械設備を期首から継続的に受注を確保したことによって、売上高は前年同期に比べ大幅な増加となりました。

この結果、当部門の売上高は753百万円（前年同期比51.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産・負債・純資産の状況

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ156百万円増加し、5,427百万円となりました。これは主に、現金及び預金が177百万円、仕掛品が52百万円、投資有価証券が50百万円、それぞれ増加した一方で、受取手形及び売掛金が129百万円減少したことなどによります。

負債は、前事業年度末に比べ59百万円増加し、2,062百万円となりました。これは主に、電子記録債務が236百万円増加した一方で、設備関係支払手形が195百万円減少したことなどによります。

純資産は、前事業年度末に比べ97百万円増加し、3,365百万円となりました。これは主に、配当金の支払い76百万円があった一方で、四半期純利益の計上141百万円があったことにより、利益剰余金が65百万円増加し、投資有価証券の時価の上昇により、その他有価証券評価差額金が31百万円増加したことなどによります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末と比べ177百万円増加し、605百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期累計期間の39百万円のキャッシュ・インに対し、当四半期累計期間は467百万円のキャッシュ・インとなりました。これは、税引前四半期純利益224百万円の計上、売上債権の減少による資金の増加額122百万円並びに仕入債務の増加による資金の増加額254百万円などの資金の増加があった一方で、たな卸資産の増加による資金の減少額91百万円、法人税等の支払いによる資金の減少額104百万円などの資金の減少があったことなどが主な要因であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期累計期間の62百万円のキャッシュ・アウトに対し、当四半期累計期間は214百万円のキャッシュ・アウトとなりました。これは、有形固定資産の取得による支出が200百万円、保険積立金の積立による支出が11百万円、それぞれあったことなどが主な要因であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期累計期間の48百万円のキャッシュ・アウトに対し、当四半期累計期間は76百万円のキャッシュ・アウトとなりました。これは、配当金の支払いによる支出があったことなどが主な要因であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年3月期通期の業績予想につきましては、現時点において、平成26年5月12日付の「平成26年3月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)」にて公表いたしました業績予想に変更はございません。なお、今後の経営環境により、業績予想の修正が必要となった場合は、速やかに公表させていただきます。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	428,239	605,478
受取手形及び売掛金	1,869,923	1,740,591
電子記録債権	145,807	150,909
商品及び製品	160,911	158,740
仕掛品	271,503	323,819
原材料及び貯蔵品	236,128	277,312
その他	64,483	52,490
貸倒引当金	△193	△193
流動資産合計	3,176,803	3,309,148
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,764,513	1,764,513
減価償却累計額	△954,919	△978,980
建物(純額)	809,593	785,533
土地	456,904	456,904
その他	667,149	651,230
減価償却累計額	△481,519	△477,971
その他(純額)	185,629	173,258
有形固定資産合計	1,452,128	1,415,696
無形固定資産	16,039	13,909
投資その他の資産		
その他	627,866	690,376
貸倒引当金	△1,650	△1,650
投資その他の資産合計	626,216	688,726
固定資産合計	2,094,384	2,118,332
資産合計	5,271,187	5,427,480

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,042,027	1,059,565
電子記録債務	297,566	534,554
未払法人税等	114,664	87,625
製品保証引当金	2,342	2,211
賞与引当金	46,499	51,621
設備関係支払手形	195,300	—
その他	103,315	111,991
流動負債合計	1,801,716	1,847,569
固定負債		
退職給付引当金	153,627	157,849
その他	47,638	56,824
固定負債合計	201,266	214,673
負債合計	2,002,982	2,062,242
純資産の部		
株主資本		
資本金	156,100	156,100
資本剰余金	146,100	146,100
利益剰余金	2,881,998	2,947,694
自己株式	△34,423	△34,438
株主資本合計	3,149,774	3,215,456
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	118,430	149,781
評価・換算差額等合計	118,430	149,781
純資産合計	3,268,205	3,365,238
負債純資産合計	5,271,187	5,427,480

(2) 四半期損益計算書
第2四半期累計期間

	(単位：千円)	
	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	2,882,809	3,015,213
売上原価	2,263,350	2,353,499
売上総利益	619,458	661,713
販売費及び一般管理費	435,138	440,783
営業利益	184,320	220,930
営業外収益		
仕入割引	1,760	1,774
その他	1,238	1,672
営業外収益合計	2,999	3,446
営業外費用		
支払利息	—	127
電子記録債権売却損	—	162
売上割引	6	0
その他	—	45
営業外費用合計	6	336
経常利益	187,312	224,040
特別利益		
特別利益合計	—	—
特別損失		
特別損失合計	—	—
税引前四半期純利益	187,312	224,040
法人税、住民税及び事業税	79,454	79,727
法人税等調整額	△4,794	2,332
法人税等合計	74,659	82,060
四半期純利益	112,653	141,979

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	187,312	224,040
減価償却費	40,791	48,123
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1	0
賞与引当金の増減額(△は減少)	23	5,121
退職給付引当金の増減額(△は減少)	4,734	4,221
製品保証引当金の増減額(△は減少)	1,215	△131
受取利息及び受取配当金	△234	△257
支払利息	—	127
有形固定資産売却損益(△は益)	—	△630
売上債権の増減額(△は増加)	△93,880	122,554
たな卸資産の増減額(△は増加)	△13,677	△91,328
仕入債務の増減額(△は減少)	△83,977	254,525
未払消費税等の増減額(△は減少)	34,227	13,769
その他	△23,111	△8,077
小計	53,421	572,059
利息及び配当金の受取額	102	125
利息の支払額	—	△127
法人税等の支払額	△14,213	△104,404
法人税等の還付額	44	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	39,355	467,652
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△41,407	△200,949
有形固定資産の売却による収入	—	630
無形固定資産の取得による支出	△6,741	—
投資有価証券の取得による支出	△2,400	△2,400
保険積立金の積立による支出	△11,508	△11,508
その他	△72	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△62,130	△214,227
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	90,000
短期借入金の返済による支出	—	△90,000
自己株式の取得による支出	△13	△14
配当金の支払額	△48,558	△76,171
財務活動によるキャッシュ・フロー	△48,571	△76,185
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△71,346	177,239
現金及び現金同等物の期首残高	672,900	428,239
現金及び現金同等物の四半期末残高	601,554	605,478

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

該当事項はありません。

4. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当第2四半期累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
アルファフレーム部門	1,130,291	78.2
装置部門	1,141,930	119.9
合計	2,272,222	94.8

(注) 上記の金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

② 商品仕入実績

当第2四半期累計期間における商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	品目	仕入高(千円)	前年同四半期比(%)
商事部門	工業用砥石	76,268	104.4
	機械設備	340,975	273.3
	工具・ツール・油脂類	232,239	101.0
合計		649,483	151.8

(注) 上記の金額は仕入価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

③ 受注実績

当第2四半期累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
アルファフレーム部門	1,038,547	78.2	136,430	67.1
装置部門	775,885	61.0	356,087	84.6
商事部門	864,007	124.4	364,525	127.4
合計	2,678,440	81.3	857,042	94.1

(注) 上記の金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

④ 販売実績

当第2四半期累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
アルファフレーム部門	1,119,381	78.1
装置部門	1,141,930	119.9
商事部門	753,901	151.4
合計	3,015,213	104.6

(注) 1. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	当第2四半期累計期間		
	販売高(千円)	割合(%)	前年同四半期比(%)
株式会社ホンダトレーディング	476,459	15.8	173.1
キャノン株式会社	475,814	15.8	55.2
株式会社不二越	444,244	14.7	202.4

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。